



「生活保護の切り下げを許すな！」と声をそろえる参加者＝7日、岡山市

餓死も出る生活保護切り下げ 岡山・反対集会

岡山県社会保障推進協議会と岡山県生活と健康を守る会連合会は7日、「生活保護の切り下げを許すな！ 県民集会」を岡山市で開き、県内各地から約110人が参加しました。講演をした、生存権裁判を支援する全国連絡会会長の井上英夫さん（金沢大学客員教授）は「生活保護の改悪は、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上、増進に務めなくてはならないと定めた憲法25条2項に違反する」と強調しました。わずかな年金と生活

保護で夫と2人暮らしの女性は「ご飯は、おかげにして量を増やし、おかげはスーパーの半額セールを買い、風呂は5日に1回」と実態を訴えました。

岡山県民主医療機関連合会の米田信敏さんは、同会の生活保護受給の患者実態調査を報告。51人から聞き取り、61歳以上が66%で、年金や就労収入があり保護受給の人が49%。仕事をしている6人中5人がパートや派遣労働。ほとんどの人が食費と水光熱費を切り詰め、「生活保護は最低限の生活を保障していると思わない」と答えた人が51%でした。

県生健会連合会の尾崎茂正事務局長は、8月からの保護費切り下げなどの改悪で「孤独死、餓死者もでかねない。ぜひ、反対する署名を」と訴えました。